

	NPO 法人 京都観光文化を考える会 都草だより	第35号 発行人：坂本孝志 編集人：西野嘉一 発行所：京都市上京区 下立売通新町西入 京都府庁日本館2階 電話：075-451-8146
---	------------------------------------	--

■ 新年度の抱負 一都草創立 10 周年を迎えて一



都草が設立されて今年で 10 年目になります。これまでの経過については『都草 10 周年記念誌』に詳しく掲載する予定です。この記念誌は 10 月 8 日（土）に、京都東急ホテルにて開催予定の記念式典の日にお配りできるよう、現在広報部が中心となって準備を進めています。また当日は山折哲雄先生（宗教学者）の記念講演や、祝宴の席での特別アトラクションには、四条町大船鉾保存会の皆様による祇園囃子の演奏も決まっています。是非お越し下さいますようお願い申し上げます。

さて、創立 10 周年という節目を迎えて、理事会では様々な検討を行っています。まず私たちの活動が拡大・多様化する中で、都草本来の目的を見失わないようにするため、1. 会員事業 2. 受託事業 3. 社会連携事業を三つの柱とする組織再編成を行います。そしてそのための役員の交代、部長の増員等を予定しています。これらは第 10 回都草総会（5 月 30 日開催）で皆様に改めてご報告いたします。また、会員の皆様にとっていかに有意義で楽しい「都草」であり続けるかが今後の 10 年にとっての大きな課題です。「10 周年記念事業」として皆様から応募いただいた案の中から採択された施策はまさにその課題達成へ向けたものであると思っています。今年度も皆様のご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。（理事長 坂本 孝志）

～第 65 回歴史探訪会「三宝院と下醍醐の伽藍を巡る」～



醍醐寺の伽藍を巡ったことや五大力尊仁王会に参拝したことがなかったので今回参加しました。歴史探訪会に先立ち女人堂の 9 時開門を待ち、上醍醐頂上の開山堂と上醍醐陵を目指しました。平成 20 年に落雷で焼失した准胝観音堂の跡は寂しかったですが、醍醐水や国宝の清瀧宮拝殿や薬師堂と初対面出来ました。下醍醐の護摩奉納で吹かれる法螺貝の音が連山に響きわたるのが実に気持ち



ち良く感じました。頂いた資料もスタッフ皆様が独自に工夫されたツールや話術も実に素晴らしく、有意義な一日が過ごせました。今回出逢えなかった三宝院の醍醐棚は、特別拝観の折に見に来たいと思います。解散後、赤間井のある長尾天満宮を訪ねて帰宅すると万歩計は 3 万 2 千歩を超えていました。（会員 松澤 宏樹）



五大力さんの餅上げ力奉納を見たくて、2 月 23 日の歴史探訪会に参加しました。男性の部は重さ 150 k g の鏡餅、さすがに本物は迫力がありました。

本題の探訪会では、午前中は三宝院と庭園、午後から五重塔、清瀧宮、観音堂、祖師堂と回りました。秀吉の醍醐の花見も合わせ 9 人の方が説明して下さる盛りだくさんの内容で、資料もわかりやすかったです。個人的に興味をひかれたのは、三宝院庭園の池の周りの石組み方法与五重塔で、塔内部の曼荼羅の写真は千年経っても鮮やかな色彩が残っていて、とても素敵でした。曇りがちの寒い日でしたが、多くの参拝者で混雑する中、熱心にご説明いただいた皆様、どうもありがとうございました。



（会員 須田信夫）

— 法人会員紹介「京都三井ガーデンホテル」 —

◆◇ 「都草」様がホテル施設内にいらっしゃるという強みを生かす ◇◆



三井ガーデンホテル京都四条の館内施設にインフォメーション「梢」があり、お客様が京都の旅をさらに楽しんでいただくために、その場所において観光案内を実施していただいております。お客様からの問い合わせは様々です。観光地までの交通手段の質問が圧倒的に多いですが、お勧めの飲食店の質問や、道案内やホテルサービスについてなどの質問もあり、ホテルスタッフが対応すべき質問にも心優しくご対応いただいております。私が京都四条に異動してきましたのが2年前の4月でござ

います。「都草」様による観光案内はホテルの強みであり、着任当初から強みをさらに伸ばしていきたいと考えておりました。最初の1年目は、まずは東京から転勤で来た私も含め新人ホテルスタッフに対し祇園祭の歴史や山鉦見学などの観光研修、閑散期である冬にお越しいただくお客様に冬の京都の魅力をお伝えできるよう勉強会も実施していただきました。2年目である昨年は、宿泊のお客様にご満足いただけるイベントを共に協議し、夏の祇園祭前に各山鉦の歴史などをガイドしながら巡るツアーを実施していただき、お客様からたいへん好評でした。また、冬には「都草」様が実施されている京都御苑歴史散策ツアーに、宿泊のお客様が自由に参加できるようにご協力していただきました。今後もホテル施設内での観光案内はもちろん、「都草」様とホテルでタッグを組み、お客様が喜んでいただけるイベントをより多く企画して参りたいと思います。

(三井ガーデンホテル京都四条 宿泊支配人 加藤 厚史)

◆◇ 第16回 文化交流会「京の古地図に魅せられて」—洛中洛外を歩く—◆◆



文化交流会に初参加しました。まず会員お二人のお話を拝聴いたしました。山本喜康会員は何と！物心がついた時からの地図マニアだったことや、木村哲夫会員からは古地図に基づき京都六地蔵を歩いて巡るなど、京名所案内記の解説も交えてのお話。両氏のエネルギーや造詣の深さに感服しました。さすが都草の大先輩達！後半は、京都歴史資料館の伊東宗裕先生による、古地図蒐集家や研究者などとの交流の逸話・裏話、それに『内裏図集成』のコマーシャルをも織り交ぜての

軽妙で絶妙なるご講演でした。また質問コーナーでは、丁寧な回答や解説に盛り上がるうちに惜しくも時間終了となりました。古地図ファンにとって、配布資料と共にお役立ち情報満載のひと時でした。(会員 木村 治雄)



西陣に生まれ育った私は子供の頃、よく祖母が「この辺は秀吉さんがやはったとこやさかいに土の下には秀吉さんのもんがよーけ埋まってるかもしれへんわ。」と言うのを耳にしていました。時が経ち、聚楽第の金箔瓦や石垣が発掘されると、祖母の言葉が懐かしく思い出されます。交流会の第一部では、発表者の方が実際に古地図を展示して詳しくお話されました。また、「京の六地蔵めぐり」を古地図を手に、歩いてこそ得られる良さや新しい発見、人との出会いを熱く語っていただきました。二部では、古地図の楽しみ方と共にちょっぴりご宣伝も(笑)。古地図を詳しく見ると、作った人の考え方や情報も隠されていて、いろいろな見方ができ興味がわきました。当時の人々の生活、習慣、信仰、祭り、自然が鮮やかに蘇がってきます。子供の頃の遊び場だった御所も古地図から時代と共に変遷していた様子がわかりました。私も生まれ育った京都の良さを再発見するために「古地図を片手に歩いてみようかなあ。」と、うきうきしています。(会員 清水 裕美)